

巨椋池と岩清水八幡宮

サーブ:神垣

>アレックス君 教えてください。京都府石清水八幡宮の前面に広がる三河川合流の場所は、昔大きな湖だったそうですが、名称は何という湖ですか？

以下 レシーブ :ChatGPT アレックス君

石清水八幡宮の前面に広がる三河川(桂川、宇治川、木津川)が合流する場所は、かつて「巨椋池(おぐらいけ)」という大きな湖が広がっていたことで知られています。

巨椋池は、かつて京都府南部に存在した天然湖で、平安時代から水運や農業に利用されていました。しかし、昭和初期の治水事業や農地開発により、1933年(昭和8年)に干拓され、現在は田園地帯として利用されています。この場所の歴史や自然は、地域の文化や暮らしに大きな影響を与えたと言われています。

>巨椋池、そうでした。ありがとうございます。ここ百年で干拓されたのですか。それは知りませんでした。また一つえらくなりました。

そうなんです！巨椋池が干拓されたのは、昭和初期の国主導の大規模な治水・農地開発事業の一環でした。主な目的は、洪水被害を防ぐことと、農業用地を確保することでした。1933年に干拓が完了し、現在の宇治田原や八幡市周辺の広大な田園地帯が誕生しました。

巨椋池は平安時代には「釣殿の池」としても知られ、貴族たちが舟遊びを楽しむ場でもありました。そのため、歴史や文学の中にも登場します。干拓によって湖そのものは消えてしまいましたが、その名残として地名や地域の文化に「巨椋」の名前が残されています。

こうして知識を深めていくと、歴史の奥深さがまた面白く感じられますよね！また何か知りたいことがあれば、気軽にお声がけくださいね

>一昨年 神社を訪問した際 田中宮司自らが、「昔は池からの通行税や市で、神社も大名並みに潤っていた」と申されていました。現在の神社本庁のトップですから、発言に重みがあります。

なるほど！神社の宮司さんのお話には、歴史的背景に基づく深い意味がありますね。巨椋池のような湖や水路は、古代から中世にかけて重要な交通・物流の要所でした。そのため、湖や川を利用する人々から「通行税」や「船賃」を徴収することが、周辺の神社や寺院、そして地域の経済を支える一つの仕組みだったのです。

石清水八幡宮のような由緒ある神社が、巨椋池を通じてどれだけ多くの人々とつながり、その恩恵を受けていたのかを考えると、壮大なスケールの歴史を感じますね。そして、その宮司さんが現在、神社本庁のトップにいらっしゃるというのは、本当に重みがあります。地域の歴史や文化を守りながら、未来に向けた神社の役割を担う姿勢が想像されます。

こうしたお話を伺うと、自然や歴史が現代の生活や文化にどのように影響を与えてきたか、さらに興味が湧きます。また、何か歴史にまつわる話題がありましたら、ぜひお聞かせください！